



1	水	牛久二小運動会予行練習見学(5歳児)
2	木	子育てサロン
9	木	カレーの日
10	金	保育園探検
14	火	ピョピョひろば
15	水	交通安全教室(5歳児)／おべんとうデー
16	木	3園合同交流会／子育てサロン
24	金	避難訓練
27	月	リトミック
28	火	巡回相談
30	木	誕生会

今月のわらい
・梅雨の時季を楽しみ自然事象に興味を持つ。
・異年齢で交流を楽しみながら、遊びの充実を図る。



子ども達と少し足を延ばして遠くの公園までピクニックに行きました。公園に着くと、芝生に寝そべっている子がいました。「何をしているの?」と覗き込むと、「空を見ているの」と言いました。彼の横に寝て、見上げると雲一つない青空が広がっていました。さつきまで走り回っていた子等が息せき切って集まってきました。私達を覗き込んで、みんなも同じ質問をして、同じように寝ころがって、空を見ました。青空のまぶしさに目をつぶると、草の匂いがして、爽やかな風が通り過ぎていきました。子ども達と手をつないでの帰り道、紫陽花が膨らんで、少し色づいていました。もうすぐ梅雨です。

● **保育園探検 (10日)**
・牛久二小の1年生が授業の一環として保育園を訪ねます。校歌を聞かせて頂き、一緒に遊ぶことで、小学生との距離が近づきますように。
● **交通安全教室 (15日)**
・今月までは午後に行うため、5歳児のみの参加となります。
子ども達の習う交通ルールを大人も守りたいですね。子ども達の見本となる為にも...
● **おべんとうデー (15日)**
・食品管理の難しい季節です。お弁当は、よく冷ましてから蓋をしましょう!
*お弁当箱の上に小さな保冷剤を載せてからお弁当を包んで下さい。また、保冷剤には、油性ペンで名前を書いて下さいね。
*お弁当の中には乳製品・プリン・ゼリー等要冷蔵のもの、また、楊枝やピックも入れない様

● **牛久二小運動会の予行練習見学 (1日)**
・市内保幼小研修会の話し合いで今年度は牛久第二小学校の運動会の予行練習の見学をさせて頂けることになりました。小学生の徒競走・遊戯を間近で見ることが、就学への憧れの気持ちが生まれるように配慮していきます。
● **カレーの日 (9日)**
・今年度2回目のカレーの日は、子ども達自身が目当てでカレーを作り、みんなで食べるという意識を高め、食への意欲に繋がる様にしていきます。

● **3園合同交流会 (16日)**
・つつじが丘保育園・ふたばランドの年長児が来園します。今年も、交流をきっかけとし、他園との交流を深めて行けたらと思います。
● **リトミック (27日)**
・中島先生のご指導の元、音・リズムを身体で表現する楽しさを味わいます。日常の保育の中に取り入れていきます。
★お知らせ★おねがい
★保護者会主催の夏祭りは8月20日(土)に決まりました。

・当日の土曜保育は15時までとなります。只今、役員の方々が色々企画中ですが、一人でも多くの方のお手伝いが必要です。ご協力宜しくお願いします。
*義援金のご協力ありがとうございました。
・保護者の方からのご寄付と職員のを合わせ一万七千七百三円を寄付致しました。
☆送迎の際にはお子さんから目と手を離さないで下さいね。
・駐車場と園までの道のりを子ども達だけで行かせない様にして下さい。(事故が起きてからでは遅すぎます)

● **無菌・除菌社会 (その2)**
前の月に、少しずつ菌に触れることで免疫力や抵抗力が付き、少しずつ強い菌には負けない強い体をつくるお話をしました。心も同じように、他人との衝突・トラブルを通して、人と上手に関わる力を育てます。人と関わって生きることは、大変難しいことです。他人と葛藤し、他人の心を考えることは、とても疲れることです。そんな気を遣うよりも、テレビの前で一人で遊んでいる方が楽かも知れません。▼しかし、人は人と関わらずには生きていきません。人と関わる力は、

幼児期に、小さな集団の中で喧嘩をしたり、仲良くなったりしながら育つのです。自分とは違う他人がいて、自分とは違う考えを持つ他人と、衝突したり、自分と同じ思いの他人と共感したりしながら、人と関わりあって生きていくのです。特に、喧嘩やトラブルを通して嫌な思いをしたり、又、仲良くなつて遊ぶという繰り返しの中で、人と関わる力が育ちます。人間関係がどうもうまくいかない...どうしたら良いか思い、自分をコントロールし、我慢したり、いやなことを無視したりして、それを乗り越え、対処することを学んでいくのです。▼無菌社会・除菌社会が広がっています。子ども同士の間には、すぐに関わり、すぐに親が出てきて、大事件になってしまうのです。保育園では一方的に攻撃されたり、集団でいじめたりするような場合は、積極的かつ強力で介入します。弱い者いじめは絶対に許しません。喧嘩が始まったら、よく観察します。介入するのを我慢します。十分やり合わせます。自分たちで折り合いを付け、解決策を探るように見守り、時には最小限のアドバイスをします。喧嘩、言い争いなど、子ども同志の揉め事は心を育て、人の痛み、悲しみが分かる腹の太い人になるために不可欠な経験であり、糧です。「ケンカは悪いこと」と、抗議されないと、保育園もこれ以上炎上させてはかなわないと止めてしまいますが、子ども達に必要な「負の体験」を奪ってしまふことになりません。「負の体験」をなくして、無菌状態で育った子どもは、社会に出ても耐える力がなく、すぐに参ってしまうようになりません。人を理解し、耐える力を持った、たくましい子を育てます。

理事長 浅田 清利

